

評価コメント

- ・喘息の治療管理において、EPを活用することの有効性を実証できたことを評価する。
- ・ベテラン患者が、コンプライアンス、アドヒアランスの不十分な患者を指導することの効果を踏まえ、EPの心理的特性を明らかにしたことは興味深い。各地域での展開をどの様に推進するかが課題である。
- ・患者教育の実践の場として、患者会の重要性はよく理解されるが、この方法をどの様に普遍化して広げていくかという視点で報告書をまとめていただきたい。
- ・EPの活躍の場は先生の施設内だけなのか、他の施設にも出向いていって活動しているのか。活動の場を広げるか、活動に応じて謝金を得られるとかの継続的な裏付けがないと普及が難しいと思われるが如何であろうか。
- ・EPは患者の治療法へのアドヒアランスの向上にも貢献するので有用である。患者団体間の交流を進め、他の地域との連携が広がることが望ましい。
- ・喘息の増悪に心因が関与していることは昔から強調されている。喘息患者の心理的な側面を分析することは重要であるが、この分析結果を喘息患者の管理にどのようにしてフィードバックさせるかが問題である。
- ・当事者であるEPの素晴らしさは理解しうる。また、その数を増やすことを考えるべきであるが、昨年からの進歩が感じられない。一病院のトライアルになっているので、早く多くの医療関係者にフィードバックすべきと考える。